

論文要旨

【目的】

本研究の目的は、既存の文献より、女性性器切除 (Female Genital Mutilation: 以下 FGM) 廃絶に対する教育的介入の効果について明らかにすることである。

【研究方法】

まず FGM に対する基礎的なデータを収集するために WHO のウェブサイトを検索し、次に PubMed、The Cochrane Library、POPLINE、EMBASE を使用し国外の英・仏文献の検索を行った。検索範囲は 2018 年 9 月 30 日までである。組み入れ基準はアフリカ諸国を対象に実施された対照群の有無を問わない介入に対する効果を評価している研究とした。採用文献は MIXED METHODS APPRAISAL TOOLS (MMAT) VERSION 2018 (Hong et al., 2018)を用いて吟味を行った。

【結果】

英文献 16 件、仏文献 2 件をレビュー対象として抽出した。対象国はセネガル、ナイジェリア、マリ、ブルキナファソ、スーダン、エチオピア、ケニア、エジプト、タンザニアの 9 か国であった。サンプルは女子中学生や地域住民、ヘルスケアプロバイダーが対象で年齢層や男女比は多様であった。教育的介入の内容には、ヘルスケアプロバイダーに対する FGM に関する基礎的な知識やケアに関するトレーニング、コミュニケーションアプローチを中心とした教育とアドボカシープログラム、多角的で包括的な教育プログラム、様々な手法による健康教育プログラム、様々な手法を用いた FGM に関する意識向上プログラム、切除を受けていない少女・女性に対するポジティブなブランディングに関するメッセージを展開するプログラムがあり、多角的なアプローチによる教育的介入が多かった。教育的介入により、FGM に関する態度の改善やポジティブな変化など態度への肯定的な影響、FGM に対する支持の低下や娘に対する FGM 実施の意向の低下、娘に対する FGM を実施しないという意向の増加、1 人の問題ではなく村全体の問題として FGM を捉えられるようになり村での FGM に関するコミュニケーションを促進したとの、FGM に対する態度や支持へのポジティブな効果が得られた研究が 16 件、介入後の最終調査での介入群における FGM の実施率の有意な低下がみられたとの、FGM の実施に関する行動へのポジティブな効果が得られた研究が 5 件あった。介入の実施状況や交絡因子の影響など研究の質に課題が存在した。

【結論】

本研究では FGM の廃絶に対する教育的介入について評価した 18 の文献のレビューを行った。その結果、研究の質の低さに対する注意は必要だが、コミュニティ全体を対象とした多角的な包括的アプローチによる教育的介入が、コミュニティの人々の FGM に対する態度や支持に影響を与え、FGM の実施率の低下に繋がっていたことから、FGM の廃絶に効果的であることの示唆が得られた。